

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R3-6号)

令和3年7月29日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和3年7月27、28日に伊勢湾、三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

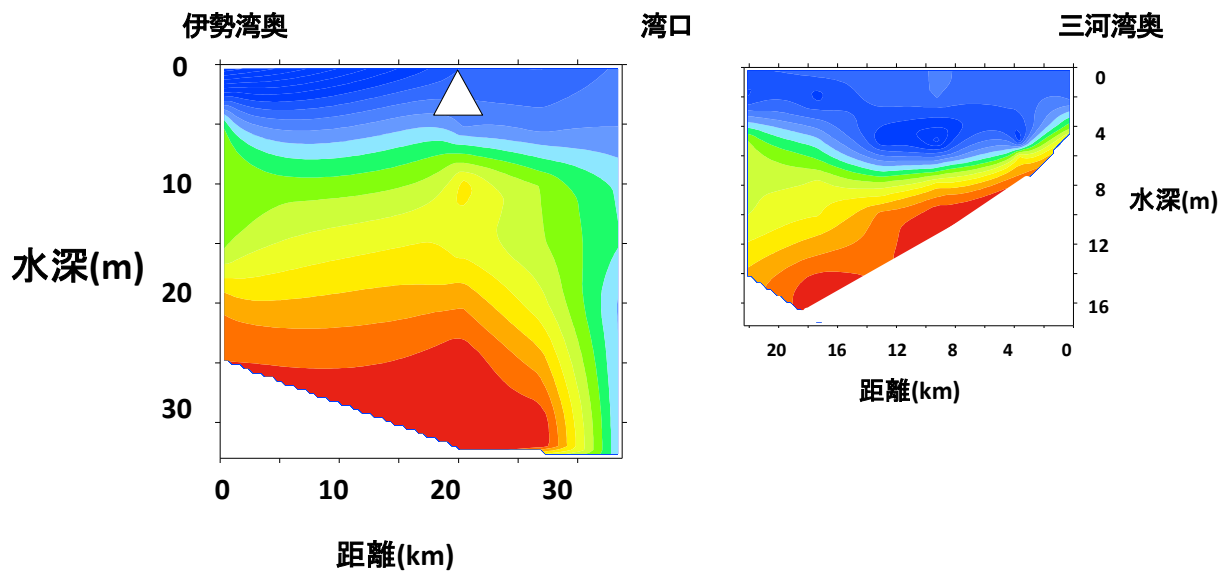
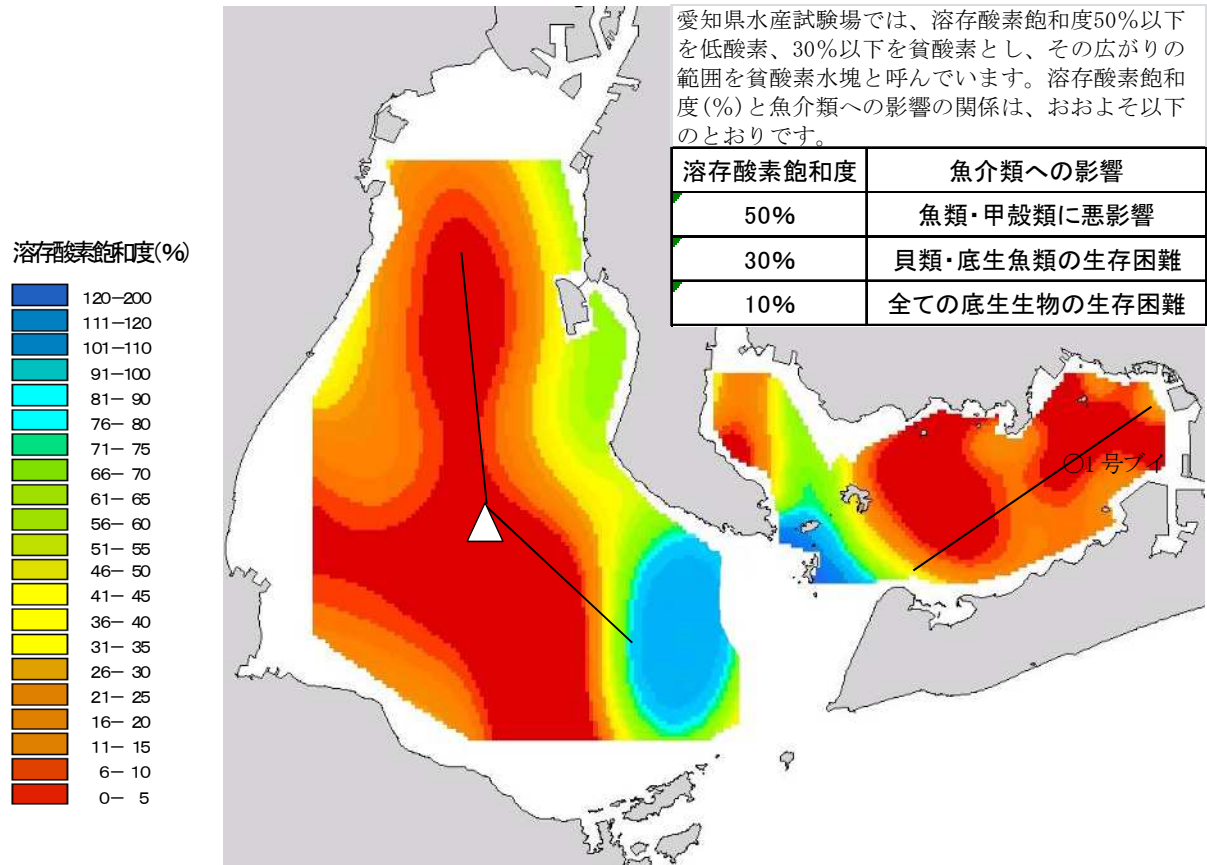


図1 伊勢湾 (7月27、28日)、三河湾 (7月27日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「海幸丸」、「へいわ」調査)

伊勢湾

7月27、28日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾の広い範囲で貧酸素水塊が確認され、特に湾中央部では南北にかけて溶存酸素飽和度10%以下の貧酸素水塊が見られます。一方で、湾口部から豊浜沖にかけては溶存酸素飽和度50%以上の水塊が確認されました。水温・塩分躍層が発達していることから、今後も貧酸素水塊の規模は継続すると思われます。

表1 調査時の水温・塩分

| | 水温(°C) | 塩分 |
|----|-----------|-----------|
| 表層 | 26.3~29.1 | 17.3~29.9 |
| 底層 | 18.6~24.7 | 32.2~33.1 |

三河湾

7月27日の調査結果を図1に示しました。渥美湾の広い範囲で溶存酸素飽和度10%以下の貧酸素水塊が確認されました。また、知多湾においても西側の広い範囲で貧酸素水塊が確認されました(図1)。

三河湾海況自動観測ブイ(蒲郡沖、1号ブイ)のデータを見ると、7月中旬以降、貧酸素水塊は海底上約3m前後の範囲で確認されました。一方で表層から約3~5mの範囲では溶存酸素飽和度が高い水塊が見られ、クロロフィル濃度も高くなっていました。中層において植物プランクトンの極大層が形成されていることが考えられます。水温・塩分躍層が発達していることから、今後も貧酸素水塊の発生は継続すると思われます。また、三河湾の広い範囲において貧酸素水塊が形成されていることから、強風に伴う苦潮の発生に注意が必要です。

表2 調査時の水温・塩分

| | 水温(°C) | 塩分 |
|----|-----------|-----------|
| 表層 | 27.9~29.7 | 23.8~29.4 |
| 底層 | 22.2~26.2 | 27.2~32.3 |

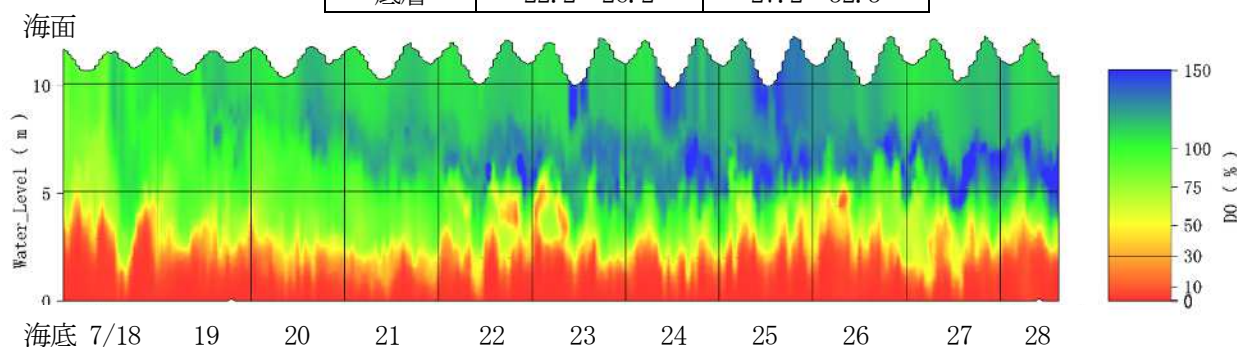


図2 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前々回、前回調査時の伊勢湾、三河湾底層の溶存酸素状況

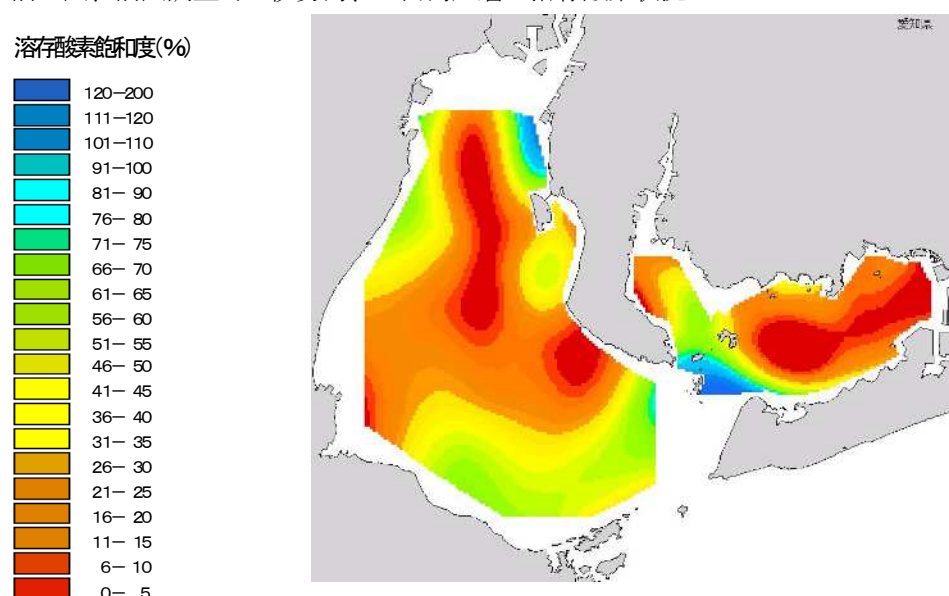


図3 伊勢湾(7月6、7日)、三河湾(7月12日)